

第2回江別市行政審議会 議事録

日 時：令和4年9月27日（火） 午後6時～午後7時30分

場 所：江別市民会館3階37号室

出席者：明神委員、新田委員、井上委員、竹田委員、内海委員、岡委員、春日委員、鎌田委員、齋藤委員、佐藤委員、清水委員、成田委員、西村委員、星委員、町村委員、山崎委員、猪狩委員、小野秀司委員、小野豊勝委員、本山委員 計20名

事務局：川上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、水口参事（総合計画・総合戦略担当）、北島主査（総合計画・総合戦略担当）、眞鍋主査（総合計画・総合戦略担当）

傍聴者：2名

1 開会

（明神会長）

ただいまから、第2回江別市行政審議会を開会いたします。

本日、新田副会長と町村委員のお二人から、遅れる旨の連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。

議事に入る前に、本日の審議会に傍聴希望者がいらっしゃいます。発言権はなく、傍聴のみということで、入室を許可したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、傍聴を許可いたします。傍聴者の入室をお願いします。

（傍聴者入室）

それでは、次の議題に入る前に、前回の会議で委員の皆様からご意見をいただいておりますが、事務局から説明できることなどはありますか。

（事務局）

前回の審議会において、各委員からいただいたご意見に関して、確認した内容をご説明申し上げます。

前回は、複数のご意見をいただきましたが、資料の作成が必要となるものは、現在作成中であります。具体的な審議がはじまり、併せてお示ししたほうが良いと思われる時期に提出して説明申し上げたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

なお、本日は、1点目に、合計特殊出生率について、2点目に、農業従事者数について、3点目に、市外への通勤者数について申し上げます。

また、3点目の市外の通勤者数については、後ほどの議題にあります、将来人口推計の資料説明時に、併せてご説明申し上げます。

はじめに、1点目の合計特殊出生率ですが、江別市の現状に関する資料の中で、千歳市、恵庭市の合計特殊出生率が高い要因についての質問をいただきました。

これに関しては、再度、内部で検討したほか、直接、両市に電話による調査も行いました。まず、内部での確認結果ですが、前回ご説明申し上げたとおり、千歳市及び恵庭市は、自

衛隊があることが大きな要因と考えており、転勤などによって、若い世代が循環しており、これに伴って子育て世代も多く、合計特殊出生率の高さに表れていると考えております。

また、千歳市と恵庭市に電話での聞き取りを行ったところ、両市ともに同様の回答でありました。

やはり、自衛隊による効果が大きいと考えているとのことであり、明確な調査結果に基づくものではないものの、ほかの業種に就かれている方よりも、比較的、結婚の年齢が若いことも要因の一つになっているのではないかとのことでありました。

したがって、第1回目の審議会でご説明申し上げた内容と齟齬はありませんでしたが、結婚の年齢がほかの業種よりも若いといった傾向にあることがわかりました。

なお、この合計特殊出生率は、少子化対策の観点で比較されやすい数値であります。前回もご説明申し上げましたとおり、当市は、この数値が低く、道内35市で最も低くなっている一方で、総人口に占めるゼロ歳から14歳までの年少人口の割合は7番目に高い状況にあります。

当市は、出産の可能性が低い大学生が多いことや、子どもを市外で産んでから、江別市に家を建てるなどして転入してくるという特色があるまちですので、当然、出生率を高める取組は必要と考える一方で、今ほど申し上げたような様々なデータなどを的確に分析し、まちの特徴を理解した上で、まちづくりを行う必要があると考えております。

次に、2点目ですが、前回ご説明申し上げた、江別市の現状の資料についてご指摘いただきました農業従事者数についてであります。趣旨は、農家世帯数に対する農業従事者数の記載がないため、資料の数値だけを見ると、農業に従事している方の人数が少なく感じてしまうとのことご指摘でありました。

これについて、審議会の後に確認いたしました結果、経済センサスにおける農林漁業の事業所数と従業者数を示しているのであれば、農林業センサスにおいて示した農業経営体数、いわゆる農家世帯数にも、農業従事者数を示す必要あったとの認識に至りました。

また、資料で示している数値に誤りはありませんが、今後、第7次総合計画の冊子などに産業のデータを掲載する際には、現行の総合計画に掲載しているように、農業の実態を的確に示すことができるよう、5年に一度行われる農林業センサス等に基づき、所管の経済部にも相談するなどして掲載したいと考えております。

なお、直近の令和2年農林業センサスで示された農家世帯数と農業従事者数であります。農家世帯数335世帯、農業従事者数801人でありました。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明をいただきました。委員の皆様から質問等ございますか。非常に的確に調査していただいたと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(質問なし)

(明神会長)

次に、私から事務局に確認しておきたい点がございます。

本日の会議に当たり、多くの資料を配付いただきました。

前回と今回は、江別市の現状をはじめ、将来人口推計や、市民参加の取組内容に関する説明をいただいて、皆さんと江別市に関する様々な情報を共有することを目的としております。したがって、前回と今回は、あくまで新たな総合計画を策定するための材料となる資料を説明いただくものであり、資料の内容の是非などを審議するものではないという理解でよ

ろしいでしょうか。

3回目から審議に入りますので、次回以降、審議会での審議内容も含めて、説明いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

(事務局)

今回までの資料の取扱いと、次回以降の審議についての確認かと思えます。

会長からお話しいただきましたように、市といたしましては、前回と今回の行政審議会、江別市の特性や現状をはじめ、将来人口推計や、市民参加の取組結果についてご報告することとしております。

したがって、委員の皆様には、まずは、市の現状や、これまでの取組結果などについてご確認いただくことを目的としております。

その点においては、会長からお話しいただきましたとおり、資料に示された内容の是非についてご審議いただくのではなく、第一義的には、それぞれの結果について、皆様と認識を一つにしながら、今後の作業を進めたいと考えているものであります。

なお、次回から具体的に審議いただくことを予定しておりますことから、次回以降の審議の際に、前回と今回でお配りした資料をご活用いただきたいと考えております。

以上でございます。

(明神会長)

ありがとうございます。事務局から説明がありましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(質問なし)

(明神会長)

3回目以降に、市から提出されるまちづくりの基本理念や将来都市像などを審議するというところでございます。資料について細かく質疑応答するというのではないということで、ご理解いただきたいと思います。

2 資料説明

(1) 将来人口推計について

(明神会長)

それでは、議事に入りたいと思います。次第2の資料説明を議題とします。事務局から、(1)の将来人口推計についての説明をお願いします。

(事務局)

将来人口推計に関して、資料1と資料2についてご説明申し上げます。

はじめに、資料1をご覧ください。1ページから3ページまでは、推計方法などについて記載しておりますが、4ページでまとめてご説明申し上げますので、4ページをお開き願います。

当市では、これまでも、総合計画を策定する際には、将来人口推計を行っておりますが、次の計画においても推計を行い、将来人口を見据えた上で、まちづくりの方向性を検討して

取り組んでいく必要があることから、本年5月に将来人口推計を行いました。

次に、推計方法であります。過去の国勢調査結果における、男女別・年齢5歳階級別の人口増減率を用いる推計手法で行いました。

なお、このたびの将来人口推計は、直近の令和2年国勢調査においては、前回調査の平成27年から人口が増加したものの、全国的に少子高齢化が進んでいる中で、今後は、江別市においても人口減少は避けられず、これまで以上の減少幅になることが見込まれることから、人口のピークである平成17年以降の人口減少基調を取り入れた、より現実的な人口推計を行うことといたしました。

それでは、推計結果を表した折れ線グラフをご覧ください。このグラフの平成17年から令和2年までは、実績値を実線で示しており、令和7年以降の推計値は、点線で示しております。

まず、これまでの国勢調査結果を見ますと、平成17年の12万5,601人をピークに人口減少が続いておりましたが、令和2年には、社会増が自然減を上回って人口が増加に転じ、12万1,056人になりました。しかし、今回の推計で、令和2年以降は、このたび推計した令和27年まで、人口が減少し続ける結果となりました。

また、令和7年には、11万7,435人となり、令和2年から15年後の令和17年には、10万人台に減少し、令和27年には、10万人を切る9万3,218人となって、令和2年からの25年間で、2万7,838人が減少する推計結果となりました。

次に、5ページをご覧ください。2の年齢3区分別人口であります。こちらは、ゼロ歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口、65歳以上の老年人口の3区分の人口を示したものであります。なお、推計期間において、年少人口と生産年齢人口が減少し続けている一方で、老年人口の増加は続き、高齢化が進行しますが、特徴的な点は、老年人口の伸びも令和17年にはピークを迎え、以降は、減少に転じる推計結果となりました。これは、いわゆる団塊の世代の高齢化が進むことで、令和17年までは老年人口が増え続けますが、それ以降は、亡くなる人数が増えることから、減少に転じることになると考えております。

次に、6ページをご覧ください。こちらは、年齢3区分別の人口構成比を表したものであります。平成17年から令和2年までは実績値、令和7年から令和27年までは推計値であります。今ほど、老年人口は、令和17年をピークに減少するとの推計結果を説明いたしましたが、このページを見ると、令和17年以降の老年人口の割合が減少しておりません。これは、老年人口は、令和17年以降、減少に転じるものの、それ以上に、年少人口と生産年齢人口が減少しているためであり、老年人口が減っても、高齢化率は増加し続けていることから、全ての年齢区分が減少し、人口全体が縮小していることがわかります。

次に、7ページをご覧ください。こちらは、年齢5歳階級別人口の動きについて、令和2年から10年おきに表したグラフであります。特徴を申し上げますと、年少人口は減少する一方で、85歳から89歳までと、90歳以上の人口が大幅に増加しており、今後も少子高齢化が進行することが推計されております。一方で、75歳から84歳までの年齢層では、先ほど申し上げたとおり、老年人口のピークが令和17年であることから、令和12年まで増加していた人口が、令和22年には減少していることがわかります。

次に、8ページをご覧ください。こちらは、人口ピラミッドと呼ばれるもので、5歳階級別の人口を男女別・5歳階級別にグラフに表したものであります。一番上が令和2年、次に、令和12年、一番下が令和22年の人口ピラミッドであります。特徴を申し上げますと、一般的に少子高齢化の状況における人口ピラミッドは、いずれも下が細く、上に向かって広がって、逆三角形となり、江別市も概ねその傾向にあります。江別市は、大学生世代が

多いことから、15歳から19歳までと、20歳から24歳までの階級が突き出ているという特徴があります。そのほか、一番上の令和2年のグラフの面積に比べて、一番下の令和22年のグラフの面積が小さくなっていることから、人口全体が縮小していることがわかります。

次に、9ページをご覧ください。これまで申し上げたのは、国勢調査の5年ごとの実績と推計でしたが、第7次総合計画の最終年、いわゆる目標年は、令和15年であり、国勢調査の実施年ではないため、こちらでは、推計年の間の人口を按分して推定した結果を表しております。

なお、第7次総合計画の中間年である令和10年では11万4,714人、目標年では10万9,594人となりました。

次に、10ページをご覧ください。こちらは、今ほど申し上げた、各年に按分した結果を年齢3区分別に表したものであり、その下の横棒グラフは、年齢3区分別の人口構成比を表したものであります。目標年である令和15年には、年少人口の割合が10%を割り込むほか、老年人口の割合が37%に達する見込みとなりました。

次に、11ページをご覧ください。こちらは、年齢5歳階級別人口の中間年と目標年の推移を表したものであり、特徴を申し上げますと、増加を続けていた75歳から79歳までの人口は、目標年には、減少に転じることが見込まれております。

最後に、12ページをご覧ください。こちらは、令和2年から、中間年と目標年の人口ピラミッドの推移を表したものであり、先ほど、ご説明申し上げた傾向と同様の傾向が見込まれ、少子高齢化が進んでいることがわかります。

以上で、資料1の説明を終わります。

次に、資料2をご覧ください。

この資料は、江別市の人口に関するデータであり、江別市の人口動態のほか、地区別の人口と世帯数の推移や、就業に関するデータ、昼夜間人口比率などについて掲載しております。

なお、この資料は、前回ご説明申し上げた内容や、今ほどの将来人口推計の内容と重複するデータも多いことから、特徴的なものを抜粋して、ご説明いたします。

それでは、1ページをご覧ください。上のグラフでは、人口と世帯数の動態を表しており、先ほども申し上げましたが、人口は、平成17年をピークに減少しておりましたが、令和2年には、増加に転じました。なお、同じグラフ内の下の折れ線グラフは、世帯数を表しており、世帯数は一度も減少することなく、増加し続けております。

これに関する下の棒グラフは、1世帯当たりの人員を表しておりますが、人員数は減少し続けており、これは、高齢の単身世帯や、夫婦のみ世帯の増加が、主な要因であると考えております。

次に、5ページをご覧ください。こちらは、江別、野幌、大麻の3地区別の人口の推移を表しております。

地区ごとの人口では、江別、野幌、大麻の順に多くなってはおりますが、平成27年から令和2年の人口動態を見ると、江別地区が減少しているのに対して、野幌地区、大麻地区が増加していることがわかります。

次に、10ページ及び11ページをお開きください。こちらは、地区別の年齢3区分別の人口の推移を表しており、3地区ともに概ね同様の傾向を示しておりますが、年少人口に着目すると、平成27年から令和2年にかけて、江別地区では減少しているものの、野幌地区と大麻地区では、増加に転じていることがわかります。

次に、16ページをご覧ください。こちらは、地区別の人口ピラミッドを表しており、各地区の人口規模ごとに面積は異なりますが、大麻地区は、市内4大学の学生の人数が多いた

め、一番下の人口ピラミッドの15歳から19歳までと、20歳から24歳までの人数が突出していることがわかります。

次に、17ページをご覧ください。こちらは、人口動態を表しており、上の表では、左から2番目の列で人口増減を示しておりますが、黒三角のとおり、平成19年以降、しばらく人口減少が続いておりましたが、大規模宅地造成などにより、令和元年には595人、令和2年には235人の人口増加となりました。なお、令和3年には、再び自然減が社会増を上回り、121人の人口減少に転じたところであります。

次に、22ページをご覧ください。年齢5歳階級別の転入と転出の状況であります。特徴を申し上げますと、江別市は、市内に4大学があり、学生が多いため、入学時に市外からの転入によって、15歳から19歳までの階級で転入超過となり、20歳から24歳までの階級では、卒業・就職を機に、その多くが市外に転出することから、大幅な転出超過となっております。一方で、江別市は、子育て世帯の転入が多いと考えております。それは、ゼロ歳から9歳までの階級において転入超過となっており、加えて、主に、その保護者の世代である30歳から39歳までの階級でも大幅な転入超過となっていることから、子どもが生まれてから、定住先として江別市が選ばれ、家を建てるなどして転入してくる世帯が多いものと考えております。

次に、25ページをご覧ください。上のグラフは、高齢者の5歳階級別の人口の推移を表したものでありますが、より高齢の世代ほど人口が増加していることがわかります。

次に、28ページをご覧ください。こちらは、地区別のひとり暮らしの高齢者の状況を表しており、地区による大きな変化はありませんが、特徴として、平成27年から野幌地区が江別地区を上回っております。

次に、30ページをご覧ください。下の横棒グラフをご覧くださいと思いますが、こちらは、年少人口の推移を表しており、平成12年から10年おきの人口を示しております。特徴は、平成12年から平成22年にかけての人口の減少幅です。全ての年齢において大幅に減少していることがわかります。そして、平成22年から令和2年にかけては、人口減少している年齢が多いものの、減少幅は小さくなっており、また、1歳、5歳では増加しております。

次に、33ページをご覧ください。こちらは、地区別の子どもの状況を示したものでありますが、特徴として、野幌地区と大麻地区では、平成27年から令和2年にかけて、子どもの数が増加したものの、江別地区では減少が続いております。

次に、35ページをご覧ください。こちらは就業に関するデータを示しており、就業者数と男女別の内訳を示しております。市内就業者数は、平成12年以降、約5万3,000人で推移しておりますが、男女別を見ると、男性が減少基調にある一方で、女性の就業者数が増加していることがわかります。

次に、36ページをご覧ください。こちらは、年齢階層別の就業者数を示しておりますが、若い世代の生産年齢人口は減少傾向にある中、60歳から69歳、また、70歳以上における就業者数が大きく増加していることがわかります。

次に、44ページをご覧ください。こちらは、通勤に係る昼夜間人口比率を示したものであり、前回、小野秀司委員から要求いただいた内容となります。

江別市にお住まいの方がどれだけ市外に通勤しているのかを示したのですが、下の横棒グラフのほうがわかりやすいため、こちらで説明いたします。

江別市から流出する、つまり、江別市から他市町村への通勤先で最も多かったのは、圧倒的に札幌市であり、次に、北広島市、岩見沢市、恵庭市、南幌町、石狩市、千歳市、当別町と続きます。また、通勤による江別市外への流出と流入の差では、約1万4,000人の流

出超過となっております。資料2の説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(齋藤委員)

江別地区、野幌地区、大麻地区とありますが、江別地区と野幌地区は、どの辺りで分けているのか教えていただきたいと思います。

(事務局)

江別地区と野幌地区の境でございますが、市内の6丁目通りで区分しております。ちょうど、江別谷藤病院の横の道路です。

(齋藤委員)

豊幌も江別地区に含まれるということですね。

(事務局)

そのとおりです。

(2) 市民参加の取組結果について

(明神会長)

次に、(2)について、事務局から説明をお願いします。

はじめに、資料3の江別市まちづくり市民アンケート調査結果の説明をお願いします。

(事務局)

江別市まちづくり市民アンケート調査結果について、ご説明申し上げます。

資料3をご覧ください。この調査は、18歳以上の市民5,000人を無作為抽出して、昨年10月に実施したもので、現行の総合計画を策定した10年前にも同様の調査を行っております。

なお、えべつの未来づくりミーティングでも、この資料をご説明してありまして、ミーティングに参加された委員もいらっしゃることから、極力わかりやすく、簡潔に説明したいと思いますので、よろしく願いいたします。

はじめに、2ページをご覧ください。江別市の住み心地についての設問ですが、「満足」、「ほぼ満足」の割合が過半数を占めており、前回の調査と比べると、少し増加している状況であり、性別、年代、居住地区での割合も下に記載しています。

次に、3ページをご覧ください。江別市への定住意向についての設問ですが、「ずっと住み続けたい」、「できるなら住み続けたい」の割合が約8割となっております。

次に、4ページと5ページをお開き願います。江別市の取組に対する現在の満足度と今後の重要度についての設問です。はじめに、5ページを見ると、満足度について、オレンジ色の「とても満足」が最も高いのは、1のごみ収集処理やリサイクルへの取組で、次いで、19の日用品の買い物のしやすさ、21の住宅環境の快適性が続きます。一方で、青色の「不満」が最も高いのは、17の道路や歩道の除排雪の状況で、次いで、20の駅周辺など市街地のにぎわい、18の公共交通機関の利用のしやすさが続きます。なお、「不満」、「やや不満」の合計が最も高いのも17の道路や歩道の除排雪の状況で、合計が6割を超えていま

す。

次に、6ページと7ページをお開き願います。7ページの重要度についてであります、満足度に関連しますが、オレンジ色の「力を入れてほしい」が最も高いのは、17の道路や歩道の除排雪の状況で、次いで、8の自然災害などに対する安全性、18の公共交通機関の利用のしやすさが続きます。なお、「力を入れてほしい」、「できれば力を入れてほしい」の合計が最も高いのは、17の道路や歩道の除排雪の状況で、合計が8割を超えています。

次に、8ページをご覧ください。今ほど説明した重要度と満足度を合わせてグラフに示したものであり、横軸に満足度、縦軸に重要度を表したもので、17の道路や歩道の除排雪は顕著になっていますが、一般的には、満足度が低い項目は、今後の取組への重要度が高くなる傾向にあります。なお、このアンケートは、昨年10月に実施したものですので、今年初めの災害級の大雪を経験する前の市民意見ということになり、除排雪への意識の高さがうかがえます。

次に、10ページをご覧ください。上段の、人口減少や少子高齢化が進むことで、想定される影響についての設問で、最も多い回答は、「バス路線の運行ダイヤの縮小や廃止など、交通サービスが低下する」が59%となっております。次いで、「子どもや若者の減少により、まちのにぎわいや活力が低下する」が、42.3%と高く、少子高齢化や人口減少が経済の縮小につながることに懸念が示されているものと考えます。

次に、11ページをご覧ください。将来の江別市のイメージとしてふさわしいものを、1位から3位まで選んでいただいたものであり、以下のような結果となっております。

これに関して、12ページをご覧ください。各項目を年代別に表したものであります。一番上の「子どもたちが地域で安心して暮らせるまち」は、30代、20代、40代の順に高くなっており、ほかの年代を大きく上回っています。

その下の「高齢者や障がい者など、すべての人が安心して暮らせるまち」は、年代が高いほど回答率が高くなっています。次の13ページでは、前回調査との比較を示しており、傾向は概ね同じであることがわかります。

次に、14ページをご覧ください。江別市のまちづくりや市民参加についての設問です。

全体的な傾向としては、「市政・まちづくりに関心がある」と回答している割合が高い一方で、2の「市政・まちづくりに、市民の意向が反映されている」、3の「市政・まちづくりは、市民の意見を聞く機会が充実している」の割合は低い傾向にありました。また、アンケートや意見公募などでの意見を述べる意向はあるものの、審議会などでの直接的な市民参加には、若干消極的な傾向にあることがわかりました。なお、15ページと16ページには、年代別の傾向を表しております。

次に、17ページをご覧ください。SDGsの認知度に関する設問です。ページ下段には、年代別の認知度を表しています。

年代が若いほど認知度が高い傾向にありますが、例外として30代が低くなっています。

最後に、18ページをご覧ください。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、今後、市が特に力を入れるべき分野に関する設問です。最も多い回答は、「地域医療の体制や設備を充実させること」、次いで、「感染症の予防対策を推進すること」、以降は、「地域経済の維持・活性化」、「福祉・介護分野に対する支援」、「雇用の維持・確保」と続いています。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

私から質問してよろしいですか。SDGsの認知度は10代が一番高いですが、教育で教

えられているということでしょうか。

(事務局)

特段、義務教育の課程でSDGsを明確に取り入れているといったことは、聞いておりません。ただ、今は、テレビなどでSDGsという言葉が多く出てきておりますので、そのような影響もあると考えております。

(井上委員)

多分、私の職場でもそうなのですが、SDGsに合致するような教育を推進するようという文、文科省の通知が恐らくあると思います。そういった指示が出ていて、シラバス、大学の授業の案内ですが、その各授業がどれだけSDGsに貢献しているか、合致しているかを併記しなければいけない状況にあります。学生はそれを見て、履修するという状況なので、若い人、特に学生に関しては、かなりSDGsに関する認識は高く、理解度も高いという状況があると思います。

(事務局)

確かに、SDGsという言葉は非常に広まっております、内容についても、少しずつ浸透していると思っております。一方で、次の第7次総合計画は、SDGsの視点を持った計画という考え方を示しております、SDGsの考え方を市の職員も、しっかりと把握しておく必要があるということで、先日、9月22日に職員研修を実施したところでございます。

総合計画の取組については、SDGsの考え方を取り入れる方向にありますが、今後、具体的にどのように取り組んでいくか、どのような計画にしていくかは、これから検討してまいりたいと考えております。

(山崎委員)

11ページの将来の江別市のイメージとしてふさわしいと考えるものを選ぶ設問で、1位と2位の回答が多かったのは「高齢者や障がい者など、すべての人が安心して暮らせるまち」とありますが、今回のアンケートの回答者2,059人の属性を見ると、60代、70代、80代で55%を占めています。アンケートの回答者の年代比率と、江別市の人口ピラミッドの年代比率が合っていればいいと思ったのですが、アンケートの属性は60代以上が多いということであれば、総合計画を考えていく上で、実際の江別市民の年代構成と比較するとバランスが合わないのではないかと思いましたが、いかがでしょうか。

(事務局)

資料3の11ページで、各世代の回答者数が多いほど、そちらに偏るのではないかとご指摘だと思います。

山崎委員がおっしゃるとおり、そのような傾向にあるのは当然の結果であると思っております、そこで12ページをご覧いただきたいと思いますが、各世代においても、年代によって、少しばらつきがあります。例えば、一番上の「子どもたちが地域で安心して暮らせるまち」というのは、当然のことながら、子育て世代、30代が突出していることがわかります。しかし、高齢になればなるほど、「子どもたちが地域で安心して暮らせるまち」を軽視しているかという、そうでもなく、50代で一旦大幅に下がっているものが、60代、70代でまた少し高くなっているなど、各項目においても、年代でばらつきがあるといった傾向も見ながら、今後の作業を進めていきたいと考えております。アンケート調査結果では、高齢者の回答者数が多いので、高齢者にやさしいまちづくりといった回答率が高いのは、おっしゃるとおりだと思いますので、12ページなども活用しながら、作業を進めていきたい

と考えております。

(明神会長)

ほかにありませんか。

(なし)

(明神会長)

次に、資料4と資料5の、えべつの未来づくりミーティング開催結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

えべつの未来づくりミーティングについて、ご説明を申し上げます。資料4と資料5を用いて説明してまいります。この資料4と資料5は非常に分厚くなっております。大変申し訳ありませんでした。

資料4の1ページをご覧ください。

1のえべつの未来づくりミーティングの実施についてであります。この取組は、総合計画の策定に当たり、市民の皆さんの声をお聞きするために行った取組であり、現行の第6次総合計画を策定する際には、40人規模の市民会議を設置して、将来の江別市に対するご意見をお聞きしたところでありますが、令和2年当初から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、大人数が集まる会議の開催は、困難な状況が続いていたことから、検討の結果、今回は、少人数から成るグループを複数設定して、感染対策を万全にした上で、グループごとに江別市の未来について語り合うミーティングを行うこととしました。

実施に当たっては、はじめに、七つのカテゴリーを設定し、関連するグループにお声がけをして、ご了承いただいたグループの参加者の人選や日程調整などを行いながら、順次行うこととしました。

なお、このミーティングには、将来の江別市を担う市の若手職員も一参加者として出席することとしました。

次に、2ページをご覧ください。開催一覧であります。ミーティングは、本年1月から7月までの約6か月間実施いたしました。1月27日から3月21日までは、北海道における「まん延防止等重点措置」の適用期間であったため、感染防止の観点から、開催を控えた時期がありました。また、2ページから3ページにかけて、ミーティングの開催一覧を記載しておりますが、全30グループと延べ31回のミーティングを行ったところであり、延べ161人の市民の皆様にご協力いただきました。

そして、このミーティングの流れであります。はじめに、市から、江別市の現状と市民アンケート調査結果について説明した後、あらかじめお知らせしていたテーマに沿って、参加いただいた皆様からご意見をいただき、1回当たり、約2時間にわたるミーティングを行ってまいりました。

テーマは、全グループの共通のテーマとして、「江別市の強みと弱み」についてお聞きしたほか、「人口減少が進む中でも江別市が力を入れるべき分野」についての意見交換を行いました。そのほか、特有のテーマを設けて行ったグループもあり、多くのご意見を伺うことができました。そして、この資料4は、各グループと行った会議の概要を全て取りまとめたものであり、4ページ以降は、各グループでの主な意見を記載し、全部で107ページに及んでおります。

なお、全体的な傾向などを把握するため、資料4のほかに、各グループから出された意見

をテーマごとにまとめた資料5を作成しました。したがって、本日は、資料5を用いて説明してまいります。

それでは、資料5の4ページをご覧ください。資料5では、全グループ共通のテーマにおいて、各グループから出された主な意見を集約し、多く出された意見について、順位付けをしたほか、主な意見を抽出して記載しておりますので、全体を通しての傾向と結果をご説明いたします。

はじめに、強みについてであります。大都市・札幌市に隣接しているため、通勤や通学のほか、通院や大きな買い物をする際のアクセスが良いとの意見が多く、また、日常生活では、身近に自然を感じることができるほか、日用品の買い物にも困らない、ちょうどいいまち、生活しやすいまちであるとの意見が多く出されました。そのほか、子育て環境が良く、子育て世代に選ばれるまちになっているとの意見のほか、公園が多いという意見や、小麦などの有名な農作物があり、また、江別市は札幌市に比べて土地が安く、広めの住宅地を購入することができるという意見がありました。

次に、弱みについてであります。雪が多いため、除排雪に課題があるとの意見のほか、江別市と言えこれ、といった特徴が乏しいとの意見や、札幌市に隣接していることが強みである一方、弱みにもなっており、札幌市に目を向けた生活になっているなどの意見が出されました。また、江別市は自家用車がなければ不便であることや、市内の公共交通がもっと充実しなければ、高齢になって運転免許証を返納した後の移動が不安であるといった意見がありました。さらに、市内には大学が四つあり、多くの大学生がいるものの、市内の就職先があまり多くないことなどから、卒業・就職を機に市外に転出しているという意見や、市の情報発信力に課題があり、江別市の良さがあまり知られていないなどの意見が出されました。

以上、江別市の強みと弱みについて、簡単にご紹介いたしました。全てのミーティングに参加した私たち担当が感じ取った全体的な傾向を申し上げますと、皆さんからは、総じて、江別市は、雪が多く大変な時期はあるものの、札幌市へのアクセスが良く便利であるほか、日常生活にも大きな不便はなく、また、自然も身近に感じることができる、とても住みやすく良いまちであるとのご意見をいただいたところであります。なお、5ページから18ページまでは、強みと弱みについて、各グループからいただいたご意見を、項目ごとに整理して記載しております。

次に、19ページをご覧ください。人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野についてであります。こちらも全グループ共通のテーマであり、全体の傾向と結果をご説明いたします。なお、主な意見については、現行の総合計画のまちづくり政策という取組の分野ごとに整理しております。本日は、順位ごとの主な意見をご紹介します。

はじめに、1位の子育て支援、教育での主な意見であります。子育て世代に選ばれるまちとして、長期的な視点に立って、子育て支援や教育に力を入れるべきとの意見をはじめ、子どもを産みやすいように、また、生まれた子どもが安心して暮らせるように環境整備を行うべきとの意見や、働きながら安心して子育てできるような支援を手厚くするべき、また、子育てにかかる金銭的な負担の軽減に関する意見などが出されました。

次に、2位の障がい者福祉、障がい者支援での主な意見であります。障がいがあっても安心して働ける場の確保や雇用促進に関する意見のほか、災害時の支援体制の充実や、障がいを持っていても、みんなで気軽に集える場の確保などの意見がありました。

次に、3位の働く場と情報発信、PRであります。まず、働く場に関する主な意見は、企業誘致に力を入れるべきという意見が多く、そのほかには、多様な働き方が求められる中、いろいろな働き方を選択できる職場を増やすための支援を行うべきとの意見や、市内の大学生からは、市内の就職情報がもっと調べやすく、市内での就職先がもっと増えたら良いなど

の意見が出されました。

次に、同じく3位の情報発信、PRでは、江別市には、魅力がたくさんあるので、もっと多くの人に伝えるべきとの意見や、江別市民にしか分からない魅力があるので、江別市に「住ませたら勝ち」だと思う。また、「仕事は札幌でも、帰る家は江別」というまちづくりでも良いと思う。隠れた魅力をさらに掘り起こして、生活の場としての魅力を広く発信するべきとの意見、そのほか、若い世代や、子育て世代、高齢世代など、各世代に合わせた情報発信の仕方が重要であり、アナログやデジタルをうまく織り交ぜながら、必要な情報が、必要なときに、必要としている方に届くように工夫するべきなどの意見がありました。

次に、5位のデジタル・トランスフォーメーション、いわゆるDXであります。主な意見は、国がデジタル化に力を入れている中で、人口減少により働き手の確保が難しくなることが想定されるため、デジタル化を積極的に進めて、市民サービスを向上させるべきとの意見や、デジタル化、DXを行うことによって、具体的にこれだけ便利になるという状態を伝えて、理解を得ながら進めていくべきとの意見、また、デジタル化やDXによって、コミュニケーションがとりやすくなれば、障がい者も参加しやすくなり、就労に結び付く可能性があるとの意見、そのほか、市内4大学と連携してDXを進め、教育体制の充実につながるような取組が実現すれば、明るいニュースになるとの意見などが出されました。

次に、6位の観光であります。主な意見は、国道や高速道路が通っており、インターチェンジも二つあるなど、立地を生かした観光を展開するべきとの意見や、人を呼んで、お金を稼ぐことができるようなイベントを開催するなどして、観光の開発を行うべきとの意見、また、江別市には既に魅力的な観光スポットがあるので、市内を巡回するバスやバスツアーがあれば、もっと観光客が増えるのではないかとこの意見などがありました。

次に、7位のアクティブシニアがより活躍するための支援、また、高齢者支援であります。主な意見は、アクティブシニアがもっと活躍できるようなまちづくりが必要との意見や、高齢者が働くということは、単に労働だけではなく、生きがいにもつながるため、高齢者にとって、子どもから大人まで、また、地域とのつながりを持てるような仕事があれば良いなどの意見があり、さらに、高齢者支援では、高齢者が安心して住み続けられるまちであることが重要との意見のほか、高齢化が進むのであれば、地域における見守り制度をより一層整えていくことが重要との意見や、地域とのつながりをより強くするための支援や、今後増えるであろう認知症の方の在宅支援とともに、同居する家族に対する支援も行わなければならないなどの意見が出されました。

次に、9位の子どもを産める産科であります。主な意見は、市外から江別市に転入して、2人目、3人目を産んでもらうためには、子どもを産める産婦人科が必要で、子どもを安心して産める環境づくりに取り組む必要があると思うなどの意見がありました。

最後に、10位の公共交通であります。主な意見は、市内中心部と郊外のアクセスを良くして、市内全体の住み良さを高めていくべきとの意見のほか、デマンド型交通の運行を充実させることで、さらに需要が高まるとの意見や、人口増加につながる点、また、雪の影響を受けないといった観点から、江別市に地下鉄を延伸できないかといった意見などが出されました。

以上、全グループ共通のテーマである、人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野に関する全体の傾向と結果についてご説明いたしました。

次に、35ページをご覧ください。このたびのミーティングでは、全グループ共通のテーマに加え、各グループ特有のテーマを設けて、ご意見をお伺いしております。具体的な説明は割愛いたしますが、35ページから56ページまでは、各グループにおける特有のテーマでいただいた、主な意見を記載しているほか、参考として、共通のテーマを順位ごとに並べ

た意見のうち、そのグループで出された意見に丸をつけておりますので、お時間のあるときにご覧いただければと思います。

なお、前回は申し上げましたが、このえべつの未来づくりミーティングには、この行政審議会委員のうち、内海委員、鎌田委員、成田委員、岡委員、星委員、本山委員、小野豊勝委員の計7名に、それぞれのグループでのミーティングにご協力いただいたところであり、この場をお借りいたしまして、改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(井上委員)

大変多くの意見を吸い上げていただいたと思うのですが、強みにしても弱みにしても、一般的には、札幌市に隣接しており、利便性が高い一方で、自然が豊かであるという意見が中心だったと思います。

そこで、江別市のオンリーワンというか、江別市の地域資源を反映させたような強みや弱みに関する意見はなかったのでしょうか。

観光の話も出ましたが、例えば、江別市内には他の市町村にはない、レンガを作っている工場がありますから、江別オンリーワンの強みといったようなPRができると思うのですが、そのような強み、弱みに関するご意見が確認できたようでしたら、教えていただきたいと思えます。

(事務局)

30グループと延べ31回、このえべつの未来づくりミーティングを行ってまいりましたが、やはり多かったのは、住んでいるという観点からのご意見が多くございまして、住むにはとても良いまちだというご意見が多かったと認識しております。ただ一方で、江別市にはまだ知られていない魅力がたくさんあるので、そこをもっと情報発信していかなければならないといったご意見も多く出されていたと記憶しております。

オンリーワンというお話でしたが、江別市といえばこれ、といったものがなかなかないという意見も非常に多かったと記憶しております。江別市の魅力をしっかりと見出して、そして市民に届ける、また、市外の方にも届けるといった観点が必要だと思っております。江別市のオンリーワンを生かして、もっとまちづくりを進めていくべきといったご意見ですが、レンガや小麦などは江別市の魅力であり、小麦などは全国的にも非常に有名ですので、より一層活用して、観光での活用をはじめ、PRしていったらどうかというご意見がありました。

特に多かったのは、農産物をもっとPRできればという声が多かったと記憶しております。

(井上委員)

おっしゃるとおりだと思いますが、例えば、小麦なども、最終的な消費者に提供される際は、ラーメンのような麺類や、ピザやパン、そういった形で消費者に結び付くわけですが、そのまちをPRするのであれば、小麦だとやはり漠然としていて、それがそのままダイレクトに消費者につながるわけではありませんので、消費者が持つイメージと合致したような、もう一つ何か踏み込んだ、別のPRの仕方があるのではないかと常々感じています。売りに関してはいくつかあると思いますが、他の市町村や周辺市町村にはないような魅力を、これからいろいろな方々の意見から見出して、作っていくのが一つのポイントになっていくのかと思えます。より消費者とダイレクトに結び付くPRの仕方が重要になってくると、いろいろなご意見を伺って感じました。

(明神会長)

消費者・住民目線の人間重視のサービスを、生産者側からではなく、消費者にとってどういうものが、どのような価値があるのかという顧客価値をアピールしていくことが大事だと思います。

私も7年ほど江別市に住んでいますが、野幌森林公園や野幌総合運動公園は、北海道の施設ではありますが、非常に近くにあって、国体で使われるようなスポーツ施設であったり、原生林がある公園であったりと、他の北海道内の施設にはないものだと思います。確かに北海道と江別市では、行政の区分が違ふとはいえ、住民にとってみれば、近くにそのような素晴らしいものがあるので、江別市としても、野幌総合運動公園を市のイベントで使用させてもらってはどうかと思います。この前の、えべつやきもの市なども、砂利敷きの会場ではなく、芝を痛めるという意見もあるかもしれませんが、野幌総合運動公園のラグビー場などで開催することができればとても良いと思います。ぜひ、北海道と市の垣根を取っていただいて、住民に、いろいろなイベントで使えるようにしていただくと良いかもしれません。あれらの施設はオンリーワンだと思います。

(井上委員)

水泳などの全道大会を野幌総合運動公園で行うので、中学生にはとても知名度が高いです。

(明神会長)

単にその大会だけに来るのではなく、その大会をきっかけにして、何かいろいろなイベントを実施したり、宿泊もできるようにしたりすると良いと思います。この前のラグビーワールドカップの際にありましたが、いろいろなスポーツで有名な選手が指導するなど、そういうことをぜひやっていただくと良いと思いました。オンリーワンというのは非常に重要なキーワードだと思います。

それでは、次に、資料6のえべつの未来づくりプロジェクト結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

えべつの未来づくりプロジェクトについてご説明申し上げます。

資料6の1ページをご覧ください。えべつの未来づくりプロジェクトは、市民参加の取組の一つとして行ったものであり、市民アンケート調査時には、10代と20代などの若い世代の回答者数が少なかったことや、一定期間、市内外在住で江別市に関係する方なら誰でも江別市のまちづくりに対する意見を述べるができる取組が必要と考えたことから、本年4月の1か月間、意見をお聴きしたものであります。

手法は、QRコードをスマートフォンなどで読み取り、インターネットを通じて気軽に意見を述べるができる仕組みにしたほか、市役所1階に専用ブースを設け、その場で用紙に記入して意見を述べるができるようにしました。

また、結果について、専用ブースでは、インターネットを含め、お寄せいただいたご意見を出し、壁に貼り付けて紹介したほか、ホームページに掲載するなどしてお知らせしました。なお、回答件数は、213件であり、市内の方が約4分の3、市外の方が約4分の1、また、20代以下の方の回答が6割以上を占める結果となりました。

また、設問は、参加する方が負担を感じないよう、一つ目に「あなたが思う江別市の理想の姿」、二つ目に「あなたが思う江別市の魅力」の2点としました。

次に、3ページをご覧ください。一つ目の設問である、江別市の理想の姿についての結果概要ではありますが、いただいたご意見を五つのカテゴリーと、そのほかの計六つに分け、カ

テゴリー別の件数と割合は、円グラフのとおりとなっております。なお、最も意見の多かった環境のカテゴリーであります。こちらには、自然環境のほかに、安心・安全な環境や、インフラ環境、未来技術を活用したデジタル環境などをまとめて環境としております。

次に、人のカテゴリーであります。主に、みんながいいきと暮らせるまちを理想とするという意見のほか、多世代交流や、若い世代が活躍できるまち、また、子どもや高齢者にもやさしいまちなどの意見がありました。そのほかにも医療、福祉をはじめ、産業などに関する意見に続き、10ページまで記載しております。

次に、11ページをご覧ください。二つ目の設問である、江別市の魅力・イチオシについての結果概要であります。こちらもいただいたご意見をカテゴリー別の円グラフにまとめ、ご覧のとおり結果となっております。なお、最も意見の多かった、立地、環境のカテゴリーでは、江別市の魅力として、人口規模や、都市と自然のバランスが良いまち、あらゆる面でちょうど良いまち、また、自然環境が豊かなまち、住みやすく便利なまちという意見が多く寄せられました。また、施設、公園、店のカテゴリーでは、おしゃれなカフェやおいしい飲食店が多いという意見のほか、市内に公園がたくさんあり、充実しているとの意見などがありました。

結果概要は、以上であります。これらの意見は、現在、第7次総合計画の策定作業に当たっての参考として活用しております。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問等ございませんでしょうか。

(質問なし)

(明神会長)

次に、資料7の職員アンケート調査結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

職員アンケート調査結果について、ご説明申し上げます。

資料7の1ページをご覧ください。職員アンケート調査は、第7次総合計画の策定に当たり、職員一人ひとりが江別市の進むべき方向性を確認し、その内容を反映させるための取組が重要であると考えたことから、実施したものであります。

対象者は、江別市の全職員としましたが、医療現場で新型コロナウイルス感染症への対応を行っている医療職への調査は控えました。

実施方法は、庁内ネットワーク上の電子アンケートを基本とし、電子アンケートが困難な職場の職員については、紙媒体による実施としました。

回答件数は、430件であり、回答率は52%となっております。なお、回答件数の内訳は2ページに記載のとおりです。

設問は、一つ目に「力を入れるべきまちづくり分野」、二つ目に「江別市をよりよくするための政策提言」の2点としました。

自由記載としておりますので、一人の職員が回答した内容が、二つの分野に該当していたり、片方の設問は未回答であったりと、回答件数と分野別の合計値が一致しておりません。

次に、3ページをご覧ください。一つ目の設問である、「力を入れるべきまちづくり分野」からご報告いたします。上の大きな円グラフをご覧ください。約3割を占める「そのほか」を除くと、最も多かった分野は「医療、福祉、子育て、教育」の分野で19.3%となりま

した。次いで、「産業」の分野で13.9%、「行財政、デジタル化、情報発信」が同じく13.9%と続き、次に「住環境」で9.7%と続いています。なお、分野別の内訳も作成しており、3ページ下段から4ページにかけ、小さな円グラフのとおりであります。

はじめに、3ページ下段の円グラフですが、最も回答の多かった分野である、「医療、福祉、子育て、教育」の分野の内訳では、「子育て支援」が50.9%を占めており、子育て環境や子育て世帯への支援に力を入れるべきとの意見が多くありました。

なお、全体の回答数が430件でありますので、「子育て支援」に力を入れるべきと答えた職員が、全体の13%となります。次に回答の多かった(2)「産業」の分野の内訳では、「雇用創出、企業誘致」が43%と最も多く、次いで「商業」として大型商業施設の充実などが続いています。

次に、4ページをご覧ください。分野別の内訳の、(3)「行財政、デジタル化、情報発信」では、「デジタル化」が67.1%を占めており、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進などにより、行政のデジタル化を推進し、業務の効率化と市民サービスを向上させるべきとの意見が多くありました。その右の円グラフ、(4)「住環境」では、「交通機関」の分野が38.2%と多く、交通利便性の充実に力を入れるべきとの意見が多くありました。一方で、「除雪」と答えた割合は18.2%でありました。

一番右下の円グラフをご覧ください。(8)「そのほか」の分野で、最も多かったのが「少子化対策」で36.7%となっていますが、回答件数では65件と、細かい分野別に分けると、最も多い回答数となりました。なお、「少子化対策」、「人口減少対策」を合わせると、回答数は126件となり、回答者の約3割を占めておりました。また、「少子化対策」や「人口減少対策」は、子育て環境や住環境、立地条件や雇用問題など、特定の分野のみならず、複合的な対応が求められますので、多様な観点でのまちづくりが必要と考えている職員が多くいる結果となりました。ほか、5ページから24ページまでは、自由記載を分野別に列記しております。

次に、25ページをお開き願います。二つ目の設問である、「江別市をより良くするための政策提言」について、ご報告いたします。上の大きな円グラフをご覧ください。最も多かった分野は(1)「産業」で24%となり、市職員が江別市の産業の活性化や大型商業施設・企業誘致の推進による、まちの活性化を望んでいる意見が多くありました。また、恵まれた立地を生かしながら、市の財政基盤を強固にするための税収増にもなる企業誘致などが必要ではないかという意見もありました。次に多かった分野は(2)「行財政、デジタル化、情報発信」、次いで(3)「医療、福祉、子育て、教育」と続きます。なお、分野別の内容は、25ページ下段から26ページにかけて記載している、小さな円グラフのとおりであります。

一つ目の設問の「力を入れるべきまちづくり分野」では、「子育て支援」や「少子化対策」、「人口減少対策」に回答が集中していましたが、政策提言の設問では、様々な分野に回答が分かれております。

市の行政運営に当たる市職員一人ひとりが、常に問題意識や市を良くするための向上心を持って、業務に当たっていくことが重要と考えておりますので、第7次総合計画の「まちづくり政策」の検討に際し、本資料を活用してまいりたいと考えております。

なお、27ページから46ページまでは、自由記載を分野別に列記しております。

説明は、以上でございます。

(明神会長)

事務局から説明いただきましたが、委員の皆様から質問などはございますか。

(齋藤委員)

少し失礼な質問かもしれませんが、回答件数827件中430件ということで、先ほど、江別市に対して、向上心を持っている職員が多いという話を聞いて、そのとおりだと思う反面、52%しか回答がない、と捉えてしまうのですが、回答がなかったということは何か理由があるのかと思いました。自由記載だからということかもしれませんが、もし分かれば教えていただきたいと思います。

(事務局)

これが、低いのか高いのか、判断しかねるところもございまして、現行の第6次総合計画では行っていない取組です。市民参加は当然ですので、市民の意見は幅広くお聞きする一方で、実際に行政運営を行っていく、市の職員はどう考えているのだろうという率直な疑問があったことから、今回初めて、チャレンジしてみました。実際どれくらい回答が来るのかと少し楽しみにしておりました。冒頭で申し上げましたとおり、52%が多いのか少ないのか。この時期は、新型コロナウイルスの感染状況も非常に逼迫した状況でございましたので、医療職は今回、回答依頼を控えておりましたが、それ以外にもそういった業務に携わっていて、なかなかアンケート調査に答える時間がなかった職員もいたものと思っております。件数では430件ということですので、この意見をしっかりと確認しながら、また、全職員にフィードバックしつつ、各政策を作り上げていく際の材料にしていきたいと考えております。

(春日委員)

対象者が全職員827人ということで、このうち、江別市に住んでいる職員の人数を、差し支えなければ教えていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

申し訳ありませんが、市内、市外在住という内訳は、現在、把握しておりません。

(春日委員)

827人に限らず、現在の市役所の職員の、江別市に在住する割合も分からないということでしょうか。

(事務局)

担当部署に確認をすれば、把握できます。ただし、このアンケート調査を行うにあたって、市外に住んでいるか、市内に住んでいるかではなく、市の職員として、調査を行っているところでございます。

(春日委員)

気になったのは、市民アンケート調査結果では、除排雪に関する意見が非常に多く出ていた一方で、職員アンケート調査結果では低い順位であるのは、市内に住んでいる方が少ないからではないかと思ったので、質問したところです。

(事務局)

明確には申し上げることはできませんが、市内在住が多いと思っております。機会があれば調べたいと思います。

(明神会長)

ほかにありませんか。

(なし)

(明神会長)

以上で、次第2の資料説明を終わります。

3 その他

(明神会長)

次に、次第3のその他について、事務局から何かありますか。

(事務局)

次回、第3回の行政審議会について、ご案内申し上げます。

先日、委員の皆様には、日程調整のご協力をいただいたところでありますが、調整の結果、次回の行政審議会は、10月27日、木曜日の午後6時から開催したいと考えております。

なお、後日、出欠の連絡依頼を申し上げますので、よろしく願いいたします。

(明神会長)

ただいまの説明について質問等はございますか。

(質問なし)

(明神会長)

私から一つ質問です。次回から審議になりますが、前回、分科会の設置についても考えるとおっしゃっていましたが、予定はどうなっていますか。

(事務局)

専門部会の設置のお話かと思いますが、今回は、具体的な審議に入ってまいりますが、まずは、総合計画の将来都市像と、基本理念の審議を予定しており、専門的な各分野にまたがる審議ではなく、江別市の将来都市像や、こういった考え方に基づいてまちづくりを進めていこうという部分に関する内容であり、比較的広い範囲での審議になろうかと思っておりますので、専門部会の設置につきましては、第4回以降で、協議を進めていただければと考えております。

4 閉会

(明神会長)

本日予定していた議事は、全て終了いたしました。

以上をもちまして、第2回江別市行政審議会を閉会いたします。